

看護業務効率化先進事例収集・周知事業
看護業務の効率化 先進事例アワード2019

奨励賞

**国民健康保険
小松市民病院**

**外来病棟一元化による
勤務環境改善**

1. はじめに__施設概要

国民健康保険 小松市民病院

- 所在地：石川県小松市
- 病床数：340床
(高度急性期15床、急性期285床)
がん診療連携拠点病院
二次救急（病院群輪番制参加病院）
- 従業員数：575人（看護職員数 336人）
- 入院基本料看護配置：急性期一般入院基本料1



2. 取り組みの背景と目的

- 従来、外来看護業務は外来専従看護師のみで実施していたが、**外来看護師は育児等により勤務時間に制約**のある者が多かった
- 外来師長は外来部署の限られた人材の中で、看護師の急な休みへの対応・休憩時間の確保・時間外勤務の偏りの調整をする等、**外来看護師の勤務体制や人材活用に課題**があった
- 外来・病棟間の看護師の連携が十分に進んでおらず、**患者から「退院後初の来院でも声掛けが無い」「入院時の連絡事項が伝わっていない」といった意見**があった

2. 取り組みの背景と目的__目標

1. 外来病棟一元化を図り、患者さん支援を中心とした、分断されることのない、**継続する患者支援体制の構築**をはかる
2. 外来看護師、病棟看護師という垣根をとり、お互い様の気持ちを根付かせ、**誰もがお休みをとりやすく、時間外勤務の少ない勤務環境改善**をめざす
3. **部署間の補完体制**促進
4. 外来病棟間の**タスクシフト**

3. 取り組みの経緯__外来病棟一元化の組織づくり

Step 1 プロジェクトチームを構成

- 2016年から師長を中心にプロジェクトチーム（一元化委員会）を構成
- 外来病棟一元化を看護部の目標に掲げ、職員間の取り組みに対する意識統一を図った（各師長への教育→師長から各病棟スタッフへ普及）

Step 2 取り組みシートを作成し目標を設定

- 取り組みシートを作成し、取り組みの月間・年間目標を設定

※取り組みシート：「看護職のワーク・ライフ・バランス推進ガイドブック（日本看護協会）」のアクションプランの方法を参考に作成し、毎月PDCAサイクルを回して評価を実施

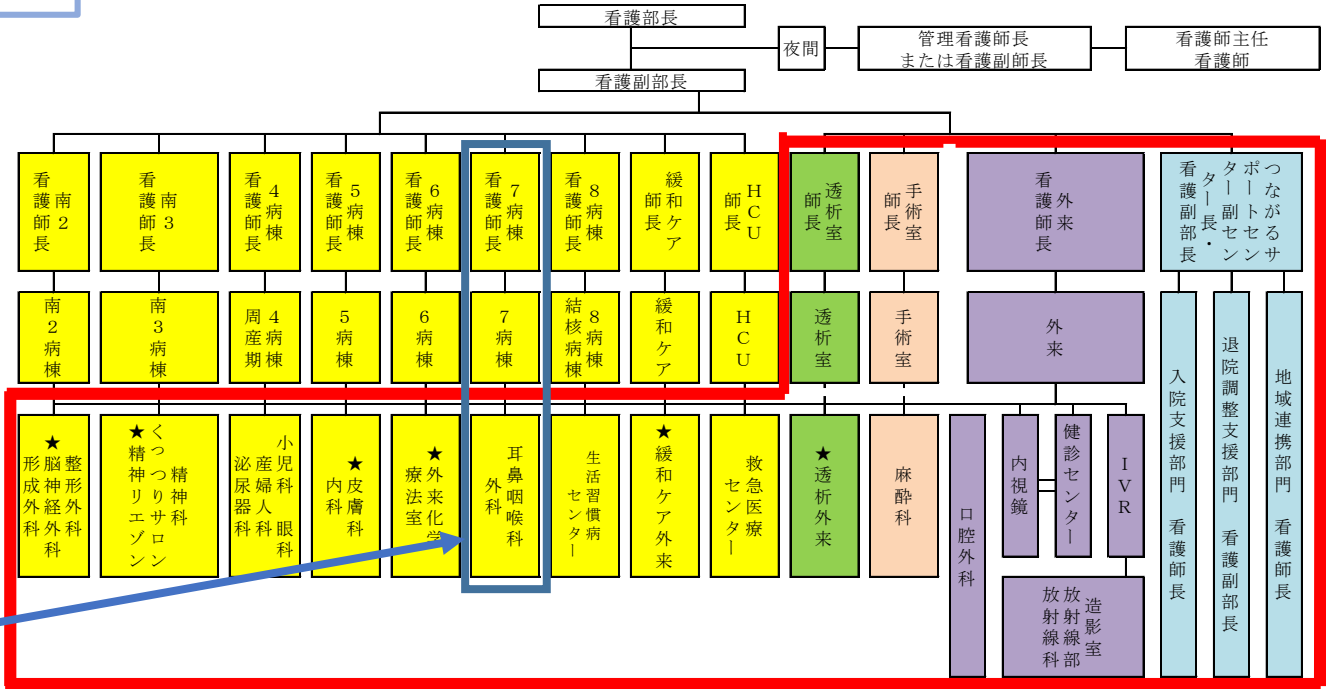
3. 取り組みの経緯__外来病棟一元化の組織づくり

外来病棟一元化の組織図

※病棟と関連が深い診療科の外来で一元化を実施

例)
7病棟（消化器内科・外科、腎臓内科、耳鼻咽喉科）は外科外来・耳鼻咽喉科外来と一元化

7病棟の看護師が外科外来・耳鼻咽喉科外来も担当



- 病棟師長が縦のライン（病棟・病棟と関連する外来）を管理
⇒各診療科（例：7病棟の場合は耳鼻科）の看護の質向上を目指す
- 外来師長は横のライン（組織図の赤枠：外来全体）を管理
⇒外来の総合的な環境改善等により、外来全体の看護の質向上を目指す

3. 取り組みの経緯__外来病棟一元化の組織づくり

Step 3 外来病棟一元化マニュアルを作成

- 業務の標準化を目的に2種類のマニュアルを作成

【全体マニュアル】

チーム作りなどの概論から、外来・病棟の業務内容等の院内全体に共通の内容を、看護部が作成

【応援マニュアル】

全体マニュアルに基づき、師長が診療科毎の専門性に配慮した内容や具体的な業務内容の説明を追加

マニュアル構成

- 1.定義
- 2.目的
- 3.組織図
・構成メンバー
- 4.外来業務内容
・外来勤務看護師の1日の流れ
・外来看護補助者の1日(半日)の流れ
- 5.病棟業務内容
・外来勤務者の病棟での業務
- 6.救急外来勤務について
・救急外来夜勤業務
・救急外来日勤業務
- 7.緊急時の対応
- 8.救急外来応援体制
- 9.外来でのチーム活動の今後について
- 10.外来担当の委員会活動継続について
- 11.外来研究活動(今年度)

Step 4 モデル部署で取り組みを 試験的に導入

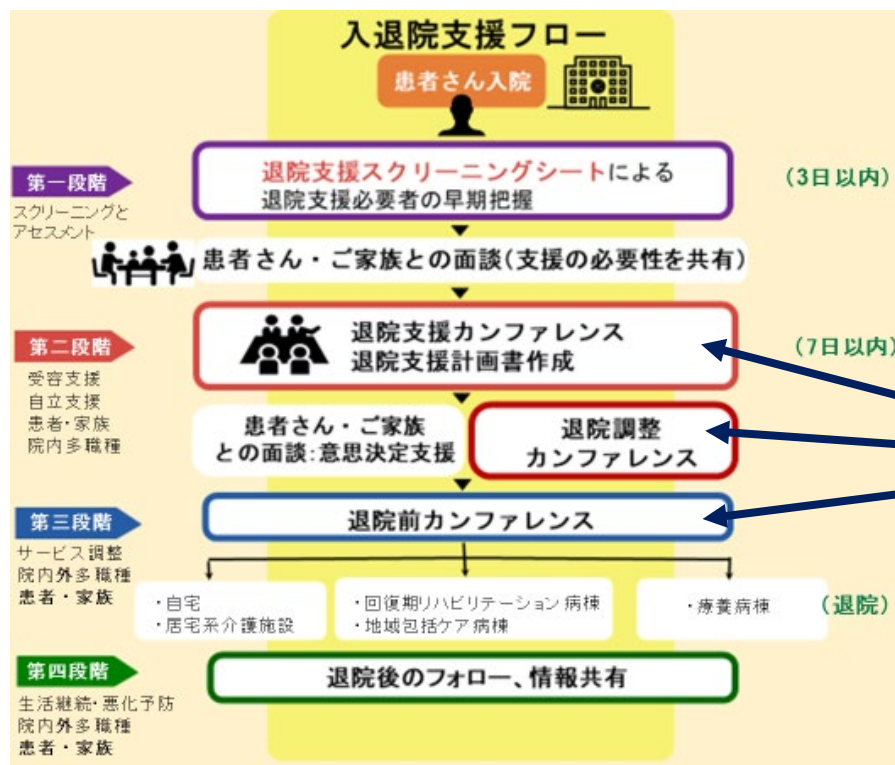
- 4科混合病棟（眼科・小児科・皮膚科・産婦人科）をモデル部署に選定。複数科の混合病棟で導入できれば院内全体での取り組みが可能と考えた
- 病棟看護師は外来看護師と一緒に仕事をしながらマニュアルに沿って業務を学んでいった

⇒約3年を経て、全病棟・外来の一元化を実現

3. 取り組みの経緯__外来・病棟看護師の連携

- ・ 外来看護師：病棟のカンファレンスに参加、外来の隙間時間に病棟業務を支援
- ・ 病棟看護師：外来看護業務を担う

➤ 外来・病棟看護師の連携による患者情報の共有



«外来看護師の動き»

病棟カンファレンスへの参加

- ・ 外来で患者情報を記録した外来患者支援連絡票（つなサポシート）をもとに外来から病棟へ何を継続すべきか確認
- ・ 病棟看護師と患者の情報を共有

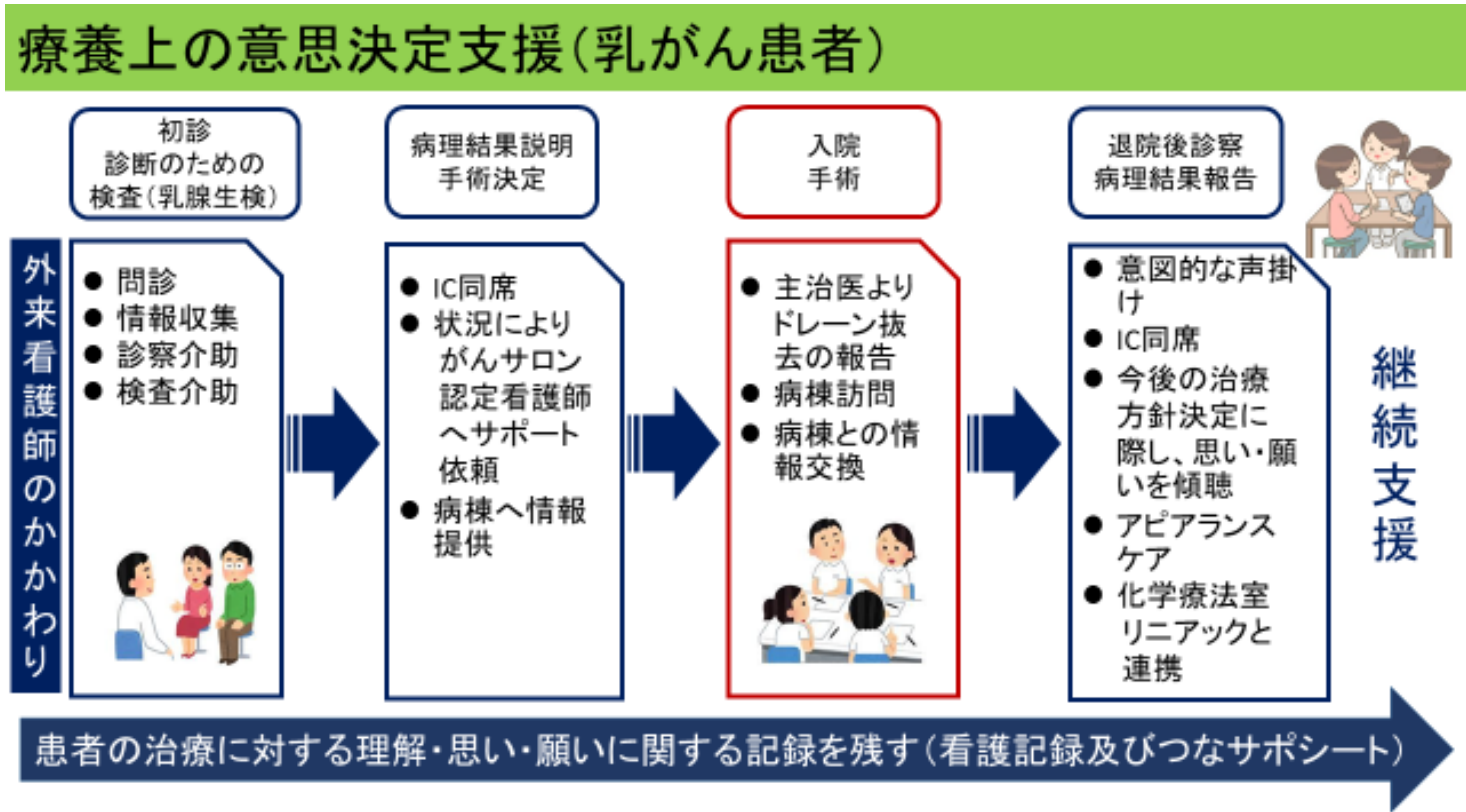


外来看護師が
病棟カンファ
レンスに参加
している様子

退院後初回受診時の意図的な声掛け

3. 取り組みの経緯__外来・病棟看護師の連携

- 病棟看護師との連携により、外来看護師は患者の入院～退院までの継続した支援を行う



4. 取り組みの効果・成果

① 外来担当看護師の平均時間外勤務の削減

： 7.4時間/月（2017年11月～2018年3月の平均）

→**3.2時間/月（2018年11月～2019年3月の平均）**

② 外来担当看護師の年休取得平均日数の増加

： 3日/人（2017年） →**4.3日/人（2018年）**

看護師の声

- ・ 病棟看護師と患者に関する情報交換がしやすくなった（外来看護師）
- ・ 部署間の連携意識が高まり、急な休みに対しても、他部署からの支援が得られやすくなった（外来看護師）
- ・ 外来の診療状況に合わせて時間の余裕がある時に病棟業務を行うなど、時間の有効活用ができています（外来看護師）
- ・ 入院前後の患者の様子を知ることができた（病棟看護師）

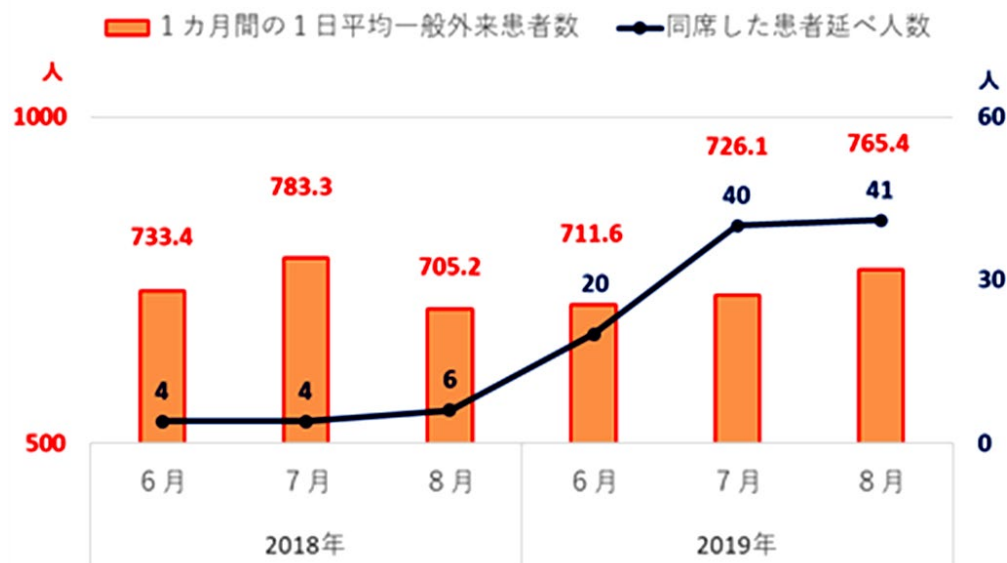
4. 取り組みの効果・成果

患者への効果

・外来担当看護師のIC同席患者数の増加

外来看護師がIC(Informed Consent: インフォームド・コンセント)に同席した患者数は、2018年6月の1か月あたり4名から、2019年8月には41名に増加し、外来での看護師による患者支援の充実につながった

外来担当看護師がIC同席した患者延べ人数



患者の声

- ・ 同じ看護師さんが入院前から入院・退院後も外来でみてくれて安心できる
- ・ 入院中に習った導尿のことが退院後できるか不安だったが、同じ看護師さんが外来にいて相談しやすかった
- ・ 外来でかかわった看護師さんが、手術の時に付き添ってくれて安心できた

5. 今後の取り組み__手術室・病棟の一元化

手術部での取り組み

- ・手術部は時間外勤務削減が課題であり、器械洗浄業務を外部委託し業務削減を図った
- ・取り組みにより生まれた時間で、ベッドサイド看護のひとつとして、手術患者の術後搬送（手術室～病棟まで）を開始した



取り組みの効果

手術室看護師

- ・術後合併症を予測しながら患者を搬送でき、**安心して患者を看ることができた**
- ・**チューブの固定・手術時の様子等を病棟看護師と共有**でき、そのことが手術室看護師の安心にもつながった
- ・病棟での**術後患者への看護の学び**が深まった
- ・患者だけでなく、**患者の家族や病棟看護師とのつながり**ができた

病棟看護師

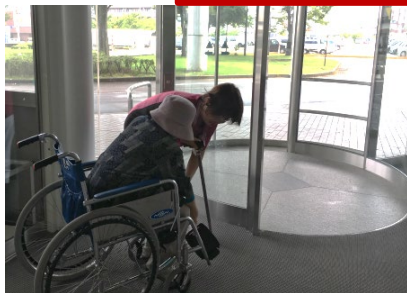
- ・ベッドサイドを離れずに術後の患者を受け入れられる

5. 今後の取り組み__病院玄関・外来待合室での看護

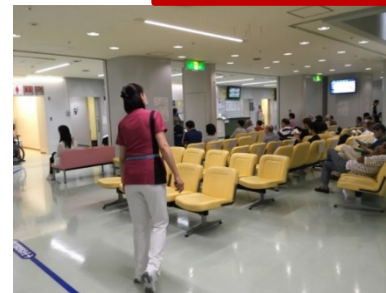
玄関看護の取り組み

外来の入口・玄関にコンシェルジュを配置し、サポートが必要な患者の介助や声かけ、療養相談などに対応

病棟看護師が病院玄関に常駐



外来看護師によるラウンド



病院玄関から受付
平日8:00~11:30
移乗介助、受診相談、異常の早期発見
と速やかな対応

- 安全・安心な受診環境
- 声をかけやすい環境づくり
- 不安・困りごとの対応
- 体調変化に気づく
- 診療への橋渡し